

美術展

10月30日(火)～11月4日(日) 9:00～17:00(最終日は16:00まで)
山梨県立美術館・県民ギャラリーA・B・C

染色体験教室

8月12日(日) 10:00～13:00
山梨県立美術館・工房A・Bワークショップ室

開催状況

第18回やまなし県民文化祭、美術展が10月30日(火)から11月4日(日)、山梨県立美術館県民ギャラリーA・B・Cで開催された。平面(油彩・水彩・版画・日本画・水墨墨彩画)、立体(彫刻・工芸・複合立体)に135点の応募があった。文化祭美術部門の専門委員と審査員、35名で公開審査を行い111点の入選が決定した。県民文化祭賞には森洋さん(韮崎市)の工芸「彩瓷椿文壺」が選ばれ、県民文化祭優秀賞は油彩、工芸、日本画、版画部門から10名、県民文化祭奨励賞は水彩で1名が受賞した。最終日4日(日)の15時に表彰式を行い、美術展は終了した。

参加促進事業は、「藍染めに挑戦!」として染色体験教室を実施した。好きな模様の藍染めで、オリジナルのエコバックを染めるもので、多くの応募者があった。教室が始まると、各参加者は藍染め作業に熱中し、来年も受講したいと希望が出る程、大変好評であった。

○美術展

部門	応募人数	応募点数	入賞・入選点数	招待
・油彩	58	63	55	39
・水彩	29	31	26	7
・版画	5	7	5	5
・日本画	9	9	8	5
・水墨墨彩	9	9	7	4
・彫刻	3	3	1	4
・工芸	10	13	9	7
・複合立体	0	0	0	2
計	123	135	111	73

陳列総点数 184点

(入選111点、審査員・招待73点)

入場者数 1,133名

○染色体験教室

講師：古屋真知子、古屋絵菜

【染色家(工芸)】

参加者数 41名



書道展

10月20日(土)～26日(金) 9:00～17:00(最終日は15:00まで)
山梨県立美術館・県民ギャラリーA・B・C

書道体験教室～カレンダーに書いてみよう～

12月23日(日・祝) 14:00～
山梨県立美術館・ワークショップ室

開催状況

平成30年10月19日、中央書壇より毎日書道会理事の柳碧蘚先生をお招きし、第18回やまなし県民文化祭書道展の審査が行われた。

今回展の応募総数は281点。委嘱出品61点と合わせ、県民ギャラリーA・B・Cを使用し、338点の展覧となった。

審査の総評として、「篆書、隸書、楷書、行草書、調和体、かな、一字書、篆刻、刻字と出品ジャンルや表現方法が多岐にわたり、各部のレベルの高さに驚くと共に、楽しい審査をすることができた。特に入賞作品は共通して、余白の美、磨かれた感性が表出した作品を選考した。」第一席のやまなし県民文化祭賞には日永田恵草さんの篆書金文作品が選出された。その評は、「太い線で描いた作品は重くなりがちだが、きれいな余白で明るく、美しい印象を感じる作品。高い力量が感じられた。」と。その他、準県民文化祭賞1点、優秀賞9点、奨励賞10点、計21点の入賞作と入選作品が選考された。

会期中には、定着してきた、書道部門のギャラリートークが2回行われ、多くの書道愛好者が訪れ好評を得ていた。

また、12月23日、書道部門の参加促進事業「書道体験教室」を美術館ワークショップルームにて、毛筆を使ってのカレンダー作りを指導した。たくさんの親子連れの参加を得て、大盛況の楽しい一時であった。



○書道展

応募点数

漢字…………… 152点

一字書…………… 42点

調和体…………… 22点

かな…………… 40点

篆刻…………… 5点

刻字…………… 20点

(公募) 出品総点数…………… 281点

委嘱出品数…………… 61点

陳列総点数…………… 338点

入場者数…………… 1,342名

○書道体験教室

指導者数…………… 6名

参加者数…………… 135名

写真展

11月6日(火)～13日(火) 9:00～17:00
(11月12日は休館日、初日は13:00～ 最終日は15:00まで)
山梨県立美術館・県民ギャラリーA・B

写真家 清水哲朗 写真講座

11月17日(土) 第一部13:30～14:30
第二部14:45～16:00
生涯学習推進センター・交流室A・B

開催状況

第18回やまなし県民文化祭写真部門の応募は、モノクロ、カラー、ネイチャー、組、小中高生の部と昨年通りのかたちで行われ、8月31日に締切り、応募者数は昨年より20名程少ない221名でした。

本年度の特徴的なことは、県下の市町村で小中学生を対象にした写真教室が一部で行われたことです。そのこともあり本年は小学生の作品の応募もありました。これからも若い人たちに作品づくりとしての写真に期待していきたいと思えます。

本年の作品の審査は、写真家の清水哲朗氏に依頼、非常に厳正な審査が行われ、滞りなく終了することができました。その審査終了後、県民文化祭賞を受賞された、三澤久さんの作品「渋滞中」(モノクロの部)は文明社会の成れの果てをモノクロで表現することで、草、木、空などの自然の嘆きがきこえてきそうな作品と評しています。

参加促進事業は、11月17日(土)に出にプロの写真家、小林紀晴氏を招いて写真講座を実施しました。内容としては、県下の写真クラブの有志18人に一人一点ずつ出してもらい、スクリーンに投影、講師より出品者の作画の意図をきき、良い点、改善点など適切なアドバイスをいただきました。昨年に続き、有意義な写真講座であったと思えます。

○写真展

応募点数

モノクロ単写真の部……………84点
カラー単写真の部……………217点
ネイチャー単写真の部……………156点
組写真の部……………56点
中高生の部……………244点
合計 757点

出品者数……………221名
入場者数……………922名

○写真家 小林紀晴 写真講座

参加者数……………65名



華道展

11月8日(木)～13日(火) 10:30～19:00
 (10日は17:00まで、最終日は16:00まで)
 防災新館オープンスクエア

無料いけばな親子体験教室

4月21日(土)～22日(日) 13:30～16:00
 岡島百貨店・7階大催場

開催状況

第18回やまなし県民文化祭華道展は今回より新会場、県防災新館オープンスクエアに変更し開催いたしました。新会場での開催の為、会場作りには華道協会全流派一丸一体となつての会場作りに傾注し、県生涯学習文化課の協力体勢も加わり予想以上の見事な華展会場の設営ができました。新会場を埋め尽くした作品群は「秋」を満喫するに十分な演出が漂い入場者に自然の馳走を存分に味わっていただいたと思います。

又「いけばな体験教室」は会場の都合により第26回山梨県華道協会展会場の一遇において開催し、華道協会代表者の指導の下、幅広い多数の年齢層の参加を頂き成功裏に開催いたしました。



○華道展

出瓶者数

山梨県華道協会加盟……………17流派
 同会派選抜会員……………68名
 合計……………85名

入場者数……………1,496名

○いけばな無料親子体験教室

参加者数… 120人 (60名×2日間)

指導者……………34名 (17名×2日間)



フラワーデザイン部門展示会 花音

11月10日(土)～11日(日) 10:00～19:00
甲府市総合市民会館2F・遊亀公民館・展示室

フラワーデザインワークショップ(体験講習会)

11月10日(土)～11日(日) 14:00～15:15
展示会場奥に併設

開催状況

芸術の秋に相応しい秋晴れの11月二週目恒例のフラワーデザイン部門展示会及び同日併催のワークショップを甲府市総合市民会館2階遊亀公民館展示室で開催しました。慣れた場所で搬入・搬出がし易く、サイズの違う作品等どの様にも展示できます利点又、来場される方々に駐車場が完備されているという理由で長年この展示室を使用しています。

今回はテーマを「花音」とし、前日の設営及び場所決め後、各自慣れた場所での搬入はスムーズに行われました。開催中の会場内は花々と辻井伸行氏のピアノの音色でお客様をお迎えしました。恒例の体験講習は土曜日の中・高校生対象、日曜日を一般対象にと企画していましたが、学校の催事と重なり今年は学生の希望には両日に対応し大盛況でした。

11月上旬は文化祭や展示会も重なり若干来場者の減少があり来年度日程の調整をと考えておりますが、18回目の部門展も多くの方のご尽力を賜り無事に終了出来ました。

- 展示会
出展者……………32名
入場者数……………800名
- ワークショップ
指導者数……………各4名(2日間)
参加者数……………51名(2日間)



ハンドクラフト展

11月7日(水)～13日(火) 9:00～17:00
山梨県立美術館・県民ギャラリーC

ハンドクラフト体験教室

8月5日(日) 10:00～17:00
甲府市遊亀公民館2階・講義室2号

開催状況

第18回やまなし県民文化祭「ハンドクラフト展」は、県立美術館・県民ギャラリーCで開催されました。

会を重ねるごとに、完成度の高い公募があり、21種類という幅広い作品を一堂に見られる見応えのある作品展となりました。

大賞は「粘土工芸」、準大賞は「木工」が選ばれました。

作品を見やすく、際立たせるよう配置し、雰囲気づくりにも工夫してみたところ、来場者より、今まで以上に作品についての質問が多く、関心度の高さに驚かされました。また、1日見ていたい、素晴らしい作品ばかりとお褒めの言葉をいただき、嬉しい気持ちと同時に、ホッとし苦勞も報われた気持ちになりました。

ハンドクラフト展も多くの方々の協力と積み上げた力作があってこそ、成り立つものだと感謝するばかりです。

会員一同、心に残る作品づくりに努め、次展へのさらなる飛躍に努めたいと想います。

体験教室はクレイアート「お菓子の家」とアメリカンフラワー「お花の壁掛け」をしました。多くの応募があり、「楽しかった」、「またつくってみたい」と好評をいただき、嬉しい限りでした。



○ハンドクラフト展

参加者数 会員……………12名
一般公募入選者………63名
合計……………75名

入場者数……………1,352名

○ハンドクラフト体験教室

参加者数……………65名
指導者……………12名

文 学

表彰式 平成31年2月23日(土) 14:00~16:30
山梨県立文学館・研修室

川柳 小林是綱氏講演会

9月16日(日) 11:00~12:30
甲府市総合市民会館・3階大会議室

開催状況

第18回やまなし県民文化祭文学部門の作品募集は、応募要項一部修正の上例年どおり、小説・児童文学・エッセイ・詩・短歌・俳句・川柳の7部門で実施し、272名の方から281作品を寄せて頂きました。11月中に各部門で審査をして頂き、年があけて平成31年2月23日(土)午後2時~午後4時30分に行われた表彰式で賞状と賞品が授与されました。小説部門では10代の方が優秀賞を受賞し、川柳部門でも10代の方の出品があるなど、今後の若い世代の活躍が期待される一方、上は80代以上の方がすべての部門総計で76名(27.9%)おられました。幅広い年代の応募に山梨の文学層の厚さを感じます。また、今年度は一人の方が筆名で小説部門と児童文学部門の最高賞と詩部門の優秀賞を受賞されるという快挙もありました。ただ小説・児童文学・エッセイの散文部門では出品者数の減少がみられ、今後の課題となりそうです。

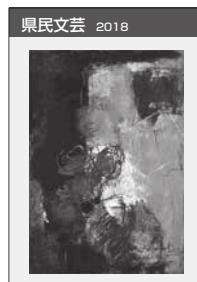
参加促進事業は本年度「川柳」部門で実施。部門の玉島よ志子氏、井上信太郎氏、望月たか美氏、木村源子氏の御尽力のもと小林是綱氏の講演会を実施。川柳部門の拡充につながったと思われます。

○応募者数

小説.....11名
児童文学.....6名
エッセイ.....12名
詩.....22名(31作品)
短歌.....71名
俳句.....71名
川柳.....79名
(合計).....272名(281作品)

○川柳 小林是綱氏講演会

講師.....1名
参加者数.....109名



第18回やまなし県民文化祭文学作品集
「県民文芸2018」

大茶会

10月14日(日) 10:00~15:30

山梨県立男女共同参画推進センター (びゅあ総合)

茶道体験教室

12月2日(日) 10:00~15:50

素心庵 (芸術の森公園茶室)

開催状況

・大茶会

今年は和室、研修室等使用し六流派が450年の伝統を生かしてそれぞれのおもてなしの心で趣向を凝らし席づくりをいたしました。老若男女が一堂に会し、お菓子をお茶を楽しそうに召し上がる姿は和敬清寂そのものの事に思われました。利休居士が提唱した一碗の茶から平和がいっぱい広がりました。一人でも多くの方に茶道のよさを知っていただきたく願っております。

・茶道体験教室

本年度は大日本茶道学会が担当し、8名で指導しました。100名の参加者は幼児から小中学生、大人、外国人も加わり20名1組で5回にわたり行われました。体験内容は、客の作法「席入り・お辞儀の仕方・お菓子をいただく・お茶をいただく・お道具の拝見」、亭主としてのおもてなしの仕方「茶筌で茶をたてる・お菓子お茶を運び出す・菓子器・茶碗を下げる」です。体験を終えると緊張がとけて、笑みがこぼれます。決められた時間内でしたが、礼儀や、思いやりの大切さを知り、茶道は、楽しいと身近に感じていただけたと思います。

茶道を次の世代へ伝えていくお手伝いをして参ります。



○大茶会

参加流派

1席：江戸千家、2席：表千家、3席：煎茶道松風花月流、4席：大日本茶道学会、5席：裏千家、6席：有楽流

指導者・スタッフ数…………… 180名

来場者数…………… 3,300名

○茶道体験教室

指導者数…………… 8名

参加者数…………… 100名

音楽祭

9月2日(日) 12:30開場、13:00開演
コラニー文化ホール・小ホール

(プレオーディション (ピアノのみ)
8月5日(日) 南アルプス市カナリアホール
オーディション
8月19日(日) コラニー文化ホール・小ホール)

ジュニアコンサート

平成31年1月27日(日) 13:30開場、14:00開演
甲斐市双葉ふれあい文化館

開催状況

小学生から大人までの幅広い年齢層、バロックから近現代曲までの様々な音楽が演奏された音楽会に、今回も多くの聴衆に御来場いただきました。第1部の出演者は、プレオーディション、オーディションを経ているだけあり、日頃から努力を積み重ねていることがよく伝わる演奏を聴かせてくれました。終演後は審査発表、講評があり、表彰式を行いました。また今年は、来場者へのアンケートに対する回答が例年以上に多く、県内外の音楽愛好家の方々の音楽祭への関心の高まりを感じることができました。又、第2部の特別演奏にはフルート伊藤優里さん、ヴァイオリン大久保良明さんのお二人の素晴らしいプロ演奏に盛大な拍手をいただき終演いたしました。

参加促進事業は昨年引き続き「ジュニアコンサート」を開催しました。音楽祭オーディションで特に優れた演奏者であると専門委員が認めた、高校生までの13名による演奏会です。ピアノ、声楽、ヴァイオリン、ユーフォニアムとバラエティに富んだ内容で、将来が楽しみな出演者の演奏を聴くことができました。

来年度は、音楽祭、ジュニアコンサートなどの宣伝活動に力を入れ、更なる内容の向上発展に努めて参る所存です。

- 音楽祭
- 応募者総数……………87組
- ・プレオーディション
- 参加者数 (ピアノのみ) ……71名
- ・オーディション
- 参加者数…45組 (プレ合格者29名を含む)
- ・音楽祭
- 第1部出演者数 ……14組
- 第2部出演者数 ……4名
- ・入場者数……………約400名
- ジュニアコンサート
- ・出演者数……………13組
- ・入場者数……………約300名



合唱フェスティバル 2018

8月18日(土) 12:30~

8月19日(日) 9:20~

東京エレクトロン 荏崎文化ホール

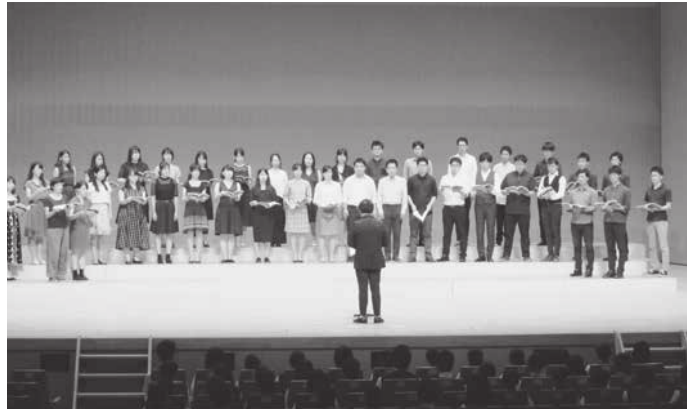
開催状況

県内の様々な合唱団が競演する合唱フェスティバルは、2日間とも熱気に満ちたステージでした。子どもからお年寄りまで、幅広い年齢層の方々にお越しいただき、それぞれの演奏が終わるたびに大きな拍手により、会場は緊張感の中にも和やかな雰囲気になりました。

講師は秋山恵美子(声楽家)、松原真介(声楽家・指揮者)、宮寺勇(指揮者)の3名の先生方で合唱演奏に関わるテクニックや表現の仕方等、適切なアドバイスをいただき、参加団体の今後の演奏活動に大変役立つものとなりました。

例年このフェスティバルは関東大会への代表を決定するコンクール部門と演奏を競わない発表部門の2つのカテゴリーを一緒に開催しています。コンクール部門ではそれぞれの団体が高度な演奏でしのぎを削り、発表部門ではそれぞれの団体が個性的な合唱をのびのびと演奏しています。どちらも重要な要素で、それがこの県民文化祭合唱フェスティバルで同時に行われているということは、素晴らしいことだとあらためて感じます。この大会が県内の合唱音楽向上のためにさらに発展していくことを願ってやみません。

出演団体	48団体
出演者数	982名
入場者数	1,100名



邦楽部門公演会

10月21日(日) 9:30~17:00
コラニー文化ホール・小ホール

箏ワークショップ おこことを弾いてたのしもう!!

- ① 8月11日(土) 14:00~16:00
生涯学習推進センター交流室
- ② 8月18日(土) 14:00~16:00
生涯学習推進センター交流室
- ③ 9月8日(土) 14:00~16:00
生涯学習推進センター交流室
- ④ 9月29日(土) 14:00~16:00
生涯学習推進センター交流室
- ⑤ 10月6日(土) 14:00~16:00
生涯学習推進センター交流室
- ⑥ 10月14日(日) 14:00~16:00
生涯学習推進センター交流室
- ⑦ 発表 10月21日(日)
コラニー文化ホール・小ホール
曲目: 夕焼け小焼け変奏曲

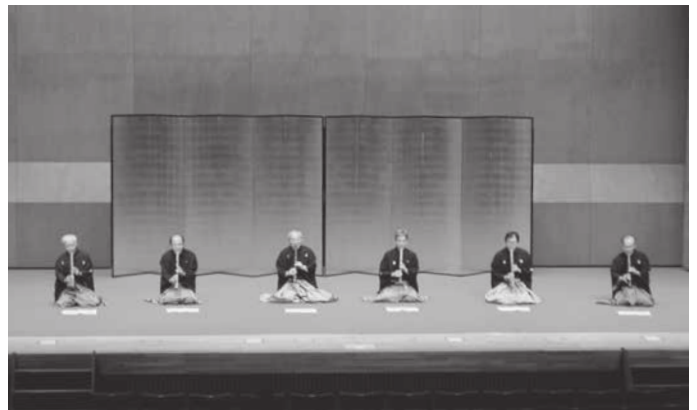
開催状況

県内各地から31組の御応募をいただきました。ワークショップ参加者による「夕焼け小焼け変奏曲」で幕を開けた演奏会は、江戸時代から続く長唄・尺八の虚無僧曲、本曲・箏曲の新曲・現代邦楽と古典から現代まで、幅広い演奏がされ観客を魅了しました。

邦楽と言ったとき、どのような音楽をイメージしますか?どこの国にも、その国独自の音楽が育って来ました。日本も同じく、独自の音楽を持っています。そして長い歴史を持っています。その音楽は言葉を大切にしている伝統があります。文学でも俳句、短歌等、日本の伝統文学、そして食文化も和食として世界に注目をあびています。しかしながら日本の邦楽と言われる音楽は、「明治維新」と「敗戦」の外部要因による大きな影響と変化を受けました。激しい変化にも、生きのび今日まで伝承されて来ましたが、生活の西洋化により、日本音楽の「言葉」がわからないからおもしろくないと敬遠されてしまいがちです。

このままでは日本の音楽~邦楽はなくなってしまうのではないかと心配です。日本のことばを知り、邦楽がわかるよう、聴いていただきたいと思います。

- 邦楽部門公演会
出演団体.....31団体
出演者数.....250名
入場者数.....700名
- 箏ワークショップ おこことを弾いてたのしもう!!
指導者数.....10名
参加者数.....20名



演劇公演

劇団やまなみ「桃子のショパン」

(作・演出／河野通方)

7月22日(日) 13:30開場、14:00開演
 笛吹市スコレーセンター

開催状況

中学生の桃子15歳は、動物好きのやさしい子どもです。ピアノを弾くことが好きでしたが、学校の音楽室のピアノを無断で弾いたと生活指導の先生に厳しく怒られ、それがもとで不登校になります。

ストーリーは、その桃子を取り巻く家族、学校(学級)の様子を描きながら、桃子が再び登校するまでの二年間を記録します。

主題は「不登校はごく一部の特別な問題ではなく、誰にでも起こりうる共通の問題であり、それは社会のあり方、学校のあり方、地域のあり方、さらに人間としての生き方や家族のあり方、夫婦のあり方をも包含する問題」として、演技者と観客がともに考えていきたいと思っています。

桃子が立ち上がるラストシーンでは、桃子自身が弾くショパンの『幻想即興曲』をバックに母への感謝状を読み上げ、そして支えてくれた友達と先生に向かって呼びかけます。桃子「萌、友達ってなに？」萌「明日と一緒にいることができること！」桃子「マサル、いじめってなに？」マサル「それって、空に向かってツバを吐くようなことさ！」桃子「小春先生、音楽ってなに？」小春「心の響きよ！」桃子「新垣先生にとって教師とは何ですか？」新垣「何回も何十回も青春をやり直させてくれるものです！」

アンケートから(楽しく生きる、しあわせに生きることがとても難しくなっているのでは？と感じています。生きていけば、辛いことも悲しいこともある。だけどなんだかんだと前向きに生きられる世の中になってほしいなぁと思います。)

出演者数(裏方含む)……………21名
 入場者数……………230名

